

7月の安全運転のポイント 平成26年7月号

雨天時は、路面が滑りやすく視界も悪いなど運転にとって悪条件が重なるときですが、一般道路と高速道路では発生しやすい危険や注意すべき点が異なる面があります。そこで一般道路と高速道路における安全走行の主なポイントについてまとめてみました。

一般道路での安全走行のポイント

雨が降り始めたらスピードを落とす

雨の降り始めは路面が滑りやすくなります。また、雨が降り始めると、傘の用意のない歩行者や自転車は早く目的地に行こうとして、急に道路を横断したり進路を変更するなどの危険な行動をとることがあります。雨が降り始めたら、スピードを落とし前車との車間距離をいつもより長くするとともに、歩行者や自転車によく目を配る必要があります。



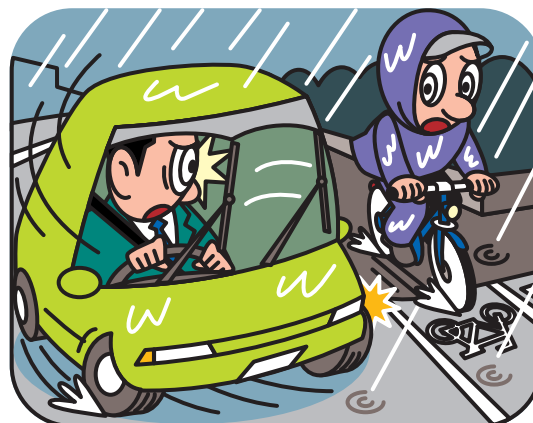
降雨時の歩行者の行動を認識して走行する

降雨時は車だけでなく、傘をさした歩行者の視界も悪くなります。特に風雨が強く傘を傾けて歩いているときは、ほとんど周囲の状況が見えない状態になり、車の有無を十分に確認できないまま道路を横断してくることがあります。また、歩行者は足元の路面を気にしながら歩くことが多いため、車の接近に気づくのが遅れることもあります。さらに歩行速度も遅くなりますから、横断にも時間がかかります。そうした降雨時における歩行行動をしっかりと認識し、歩行者の動きを予測した運転を心がけましょう。



左折時や進路変更時は後方をよく確認する

雨天時は、フロントガラスやサイドミラーに水滴が付着して前方や後方の視界が悪くなりますが、特にサイドミラーが見えにくいことで、車体の小さい自転車や二輪車を見落としてしまうことがあります。左折時や進路変更時は、サイドミラーをよく見るだけでなく、振り向いて後方を確認するなどして後続車を見落とさないようにしましょう。なお、雨天時はバックするときの視界も悪くなりますから、慎重に後方を確認し、いつでも停止できる速度で徐々にバックしましょう。





高速道路の安全走行のポイント

規制速度を守って走行する

雨天時の高速道路でスピードを出し過ぎると、スリップの危険が高まるだけでなく、路面にできた水の膜のうえを水上スキーのようにタイヤが滑走してハンドルもブレーキも効かなくなる「ハイドロプレーニング現象」が発生する危険があります。そのため、高速道路では降雨の状況に応じて時速 80キロや時速 50キロなどに速度が規制されることがありますから、走行時は速度標識や電光掲示板などに注意し、速度規制が出されたときは必ずそれを守って走行しましょう。



ハンドルやブレーキの操作は慎重に行う

高速走行時はハンドルやブレーキのちょっとした操作ミスがスリップや横転などの事故につながりますが、路面が濡れているときには、一層その危険が高まります。カーブや下り坂はもちろんのこと、直線路でも運転操作は慎重に行いましょう。



前車の水はねに注意し車間距離を十分とる

高速道路では前車のはねる水しぶきの勢いも強くなります。特に大型車のはねあげる水しぶきを浴びると、前方が何も見えない状態になることがありますから、十分な車間距離をとって走行しましょう。また、側方を通過する車から水をはねかけられて前方の視界が遮られることがあります。そうしたときにあわててハンドルを切ったりブレーキを踏むのは大変危険です。ハンドルをしっかり持って視界が回復するのを待ちましょう。

視界が悪いときは待避して様子を見る

豪雨で視界が極端に悪いときに無理をして進行すると、カーブなどの道路形状に気づくのが遅れたり、事故などにより本線車道に停止している車の発見が遅れるなど危険な事態に陥りやすくなります。前方の状況がよく見えないほど視界が悪化したときは、早めに最寄りのサービスエリアやパーキングエリア等の安全な場所に一時待避して、天候の回復を待つなど、様子を見るようにしましょう。



「ご相談・お申込先」